

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (1/4)

学部・学科	総合社会学部・総合社会学科	職名	准教授	氏名	サワ 澤 タツヒロ 達大
学歴	平成 4年 3月 筑波大学第二学群 比較文化学類 (比較・地域文化学) 卒業 平成13年 3月 東京学芸大学 大学院 教育学研究科 社会科教育研究 修了				
学位	平成 4年 3月 人文学学士 (筑波大学) 平成13年 3月 教育学修士 (東京学芸大学)				
専門分野	教育学、教科教育学 (社会科 地歴科 公民科) 教師教育学				
専門資格	平成 4年 3月 中学校教諭一種免許状 (社会) (平3中一 第1031号) 平成 4年 3月 高等学校教諭一種免許状 (社会) (平3高一 第1043号) 平成14年 6月 中学校教諭専修免許状 (社会) (平14中専修 第0025号) 平成14年 6月 高等学校教諭専修免許状 (地理歴史)(平成14高専修 第0034号)				
所属学会	平成 4年 6月 日本社会科教育学会 平成12年 9月 日本地理教育学会 平成25年 6月 日本教師教育学会 平成25年 7月 初年次教育学会				
受賞	該当なし				
担当授業科目	学 部 社会科教育法、地理歴史科教育法、社会科・地歴科授業実践論、授業研究 (社会・地歴・公民)、教育実習A・B、総合社会学入門 (オムニバス)、教職実践演習、総合社会学基礎演習【観光・地域デザインクラス】、プロジェクト科目「スポーツから学ぶリーダーシップクラス」				
論文指導	該当なし				
FD活動・教育実績	科目名	科目カテゴリー	実施学期	履修者数	
	社会科・地歴科授業実践論	講義・演習・実習・実験	春・秋	24名	
	授業の概要： 中学校社会科・高等学校地理歴史科における学習指導過程と教材研究について理解すると共に、学習指導案作成と模擬授業を通して、教育実践の成果をはかる。				
	教育活動の振り返り： 平成25年度の履修者に対して独自に行った筆記式アンケートで、模擬授業の時間を増やすことなど、教育実習をふまえての意見を受けた。模擬授業を全員に課す方針と学生の意見を反映させることの両立を考え、小グループに分けて模擬授業を実施し、ビデオでの撮影を行った。また模擬授業後は、学生たちが相互に口頭で意見交換をしあう場面を設け、事後レポートはボールペンにより記載させるなど、教育実習の実際に近い設定を行った。 教育活動の成果： 模擬授業の動画が入ったUSBメモリを渡すことで学生は振り返りが効果的に行うことができ、成績評価の観点からも有効的であった。また口頭での意見交換は教育実習先でのストレスマネジメントを考えて実施し、学生も心の準備ができたものと思われる。 今後の課題： 教育実習先での授業では、生徒とのやりとりが重要になってくるが、模擬授業では再現が難しい。T-S案作成だけでなく、マイクロティーチングを取り入れるなど、工夫を考えたい。				

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (2/4)

	科目名 教職実践演習	科目カテゴリー 講義・演習・実習・実験	実施学期 春・秋	履修者数 14名
	<p>授業の概要：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自己の学習の振り返りとまとめ 2. 自己の教師像と学校教育の中での教師像の確認 3. 実際に教育を行える教師像に向けて自己に不足する知識や技術を知り、原因と修得方法を考える 			
2	<p>教育活動の振り返り：</p> <p>平成25年度、毎回の授業時に学生が記載したコメントカード、学外での学校（授業）見学が好評で、もっと他の授業を見たいという要望が強かった。そのため、京都市立の小中一貫校に打診し、今回2校の見学を実施した。</p> <p>教育活動の成果：</p> <p>平成25年度秋学期は、中央教育審議会でも小中一貫教育の推進が答申された時期でもあり、話題性のある内容を見学できたことは非常に有意義であった。</p> <p>今後の課題：</p> <p>教職実践演習は、開講が卒業論文の追い込み時期と重なるため、見学方の学校との日程調整が難しいと思われる。早めの日程調整をはかりたい。</p>			
F D 活 動 ・ 教 育 実 績	<p>・学内外のFD関連講演会/セミナー等への参加実績</p> <p>(学外)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 桜美林大学（大学教育開発センター）第9回公開シンポジウム「アクティブラーニングの魅力と難しさ 協同学習の視点から」(平成26年9月16日)に参加 2. 法政大学（教育開発支援機構FD推進センター）第12回FDシンポジウム「私の授業の工夫：今日からできる誰でもできる授業改善」(平成26年11月8日)に参加 3. 関西地区FD連絡協議会（共催：大阪大学・教育学習支援センター）主催「ルーブリック評価入門～時短・ブレない・公平な評価方法～」(平成26年11月27日)に参加 <p>(学内)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間学研究所共同研究プロジェクト「大学教育の視点から本学の教育を考える」研究員 2. 地域協働研究教育センター共同研究プロジェクト「官学連携による『宇治学』副読本作成と現場での活用に関する研究」に参画 3. 本学地域協働研究教育センター共同研究プロジェクト「宇治・伏見地域の観光資源開発と地域振興」に参画 4. 第1回 FD講演会「京都文教大学の初年次教育を考える ジェネリック・スキルを育てるための科目間連携」(平成26年10月30日)に参加 5. 第2回 FD講演（研修）会「授業と評価をつなぐ為に～ルーブリック評価入門～」(平成27年3月5日)にてルーブリック実践報告 6. 「第1回教職学しゃべり場」(平成27年2月4日)に参加 			
	<p>・教育効果が高い、あるいは教育の一環として行われている課外活動等</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中・高教職課程履修生への課外活動 <ul style="list-style-type: none"> * 自主勉強会：1回生（7月）、2回生（9月） * 介護等体験オリエンテーション（第1回：4月、第2回：5月、特別講義：7月） * 介護等体験事前・事後面談（23名学生） * 模擬授業の授業外アドバイス * 進路相談（教員採用試験対策等） 2. 平成27年度新入学生学習（A0・推薦入試合格者対象） <ul style="list-style-type: none"> * 第1回プレエントランスデー「新聞を楽しく！」指導（平成26年12月20日） * 第2回プレエントランスデー（総合社会学部単独）「文章表現技法」（平成27年2月12日） 			

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (3/4)

<p>H26 年度 研究課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地理学習における景観の扱いに関する基礎研究 2. 教職課程履修学生への指導のあり方 3. 教師のキャリア形成
<p>平成 二十六 (2014) 年度の 研究活動 の概要</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. データをとりまとめ、7月の日本地理教育学会での発表をすることができた。後述:(学会報告、学会活動) 研究は一段落したが、今後は「景観を読み解く」ことと観光との関連をもとに、地理教育における観光学習に展開していきたい。 2. 教職課程学生への指導については、昨年に引き続き「学生の状況把握」「他大学での動向調査」「現場教員からの聞き取り」など、多方面にわたり研究材料を集めることができた。その結果、秋学期以降の授業に反映することができた。 3. 2. に連動する形で進めた。
<p>平成 二十六 (2014) 年度の 主な研究 成果等</p>	<p>(著書)</p> <p>(論文)</p> <p>(学会報告、学会活動)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「新時代の『景観を読み取る学習』展開の一考察」、単独、平成26年8月、日本地理教育学会第64回大会、横浜国立大学 <p>(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 京都文教大学教育職員免許取得課程年報(平成26年度 第9号)編集担当 2. 「教職実践演習における学校見学」、共著、平成27年3月、京都文教大学教育職員免許取得課程年報第9号(pp.4-5) <p>(調査活動)</p> <p>(学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含)</p> <p>(学内活動)</p> <p>FD委員会委員、教職課程委員会委員 高大連携委員会委員</p>
<p>平成 二十六 (2014) 年度の 社会にお ける活動</p>	<p>(NPO法人等の団体への参画)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一般財団法人 神奈川県バレーボール協会 審判委員会 副委員長「平15.4より」 <p>(小中高との連携授業の講師)</p> <p>平成26年11月 京都文教高等学校ALP「身近なルールを考える」、於：京都文教高等学校</p> <p>(その他)</p> <p>平成26年 4月 龍谷大学社会学部 非常勤講師(「地理・歴史科教育法」)</p>
<p>平成 二十一 ～ 二十五 (2009 ～ 2013) 年度の 主な研究 成果等</p>	<p>(著書)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「中学校社会科公民的分野の模擬授業をつくる 「政治学習」を中心に」、共著、平成23年4月、風間書房、共著者：田部俊充・田尻信壹・池俊介 他、『大学生のための社会科授業実践ノート増補版』(pp.104-111) <p>(論文)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「「持続発展教育」(持続可能な開発のための教育)の授業プラン ～将来・未来を考える社会科を目指して～」、単著、平成22年3月、川崎市私学年次報告書 31 (pp.103-112) 2. 「大学附属校における自校教育の取り組み ～「創立の理念」・「建学の精神」教育の実践～」、共著、平成25年7月、平成24年度「研究論文集」一般財団法人神奈川県私立中学高等学校協会、(pp.43-53) 3. 「中学校社会科(地理的分野)教科書における「観光」に関連する記述内容の分析と考察」(研究ノート)、単著、平成26年3月、京都文教大学 総合社会学部研究報告第16集 (pp.47-58)

平成 26 (2014) 年度 教員活動報告書 (4/4)

平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の主な研究成果等	(学会報告、学会活動) 1. 「小・中段階における地理試験問題作成の一考察」、単独、平成23年8月、日本地理教育学会第61回大会、秋田大学 2. 第16回全国私立大学 附属・併設 中学校・高等学校教育研究集会 実行副委員長、平成23年11月、日本女子大学 3. 「観光業の特色をとらえる学習 外国人旅行客の受け入れに関する中学社会科授業実践報告」、単独、平成25年6月、日本地理学会例会、東京学芸大学
	(その他、エッセイ・翻訳・学術講演等) 1. 「地理「持続可能な社会」に有効な学習の作業化」、共著、平成23年4月、明治図書、社会科教育 625 (2011年5月号・特集“考える場面”を学習作業化！全単元一覧)(pp.46-47) 2. 「学習指導案の記載方法」、共著、平成23年4月、日本女子大学『教育実習の手引き』(pp.68-69) 3. 「日本女子大学附属中学校 教育実践記録」編集長(平成19～24年度) 4. 京都文教大学教育職員免許取得課程年報(平成25年度 第8号)編集担当 5. 「授業での京都地方裁判所傍聴実施報告」、単著、平成26年3月、京都文教大学教育職員免許取得課程年報第8号(p.9) 6. 「教職実践演習(4回生)実施報告」、共著、平成26年3月、京都文教大学教育職員免許取得課程年報第8号(pp.10-11)
	(調査活動) (学外研究資金による研究活動・科学研究費補助金等含) 平成24年度 神奈川県私立中学高等学校協会研究委託「大学附属校における自校教育の取り組み～「創立の理念」・「建学の精神」教育の実践～」研究指定校代表者
	(学内活動) 平成25年 4月 教職課程委員会委員「現在に至る」 高大連携委員会委員「現在に至る」
	(NPO法人等の団体への参画) 平成15年 4月 一般財団法人 神奈川県バレーボール協会 審判委員会 副委員長「現在に至る」 (小中高との連携授業の講師) 平成25年10月 1. 京都文教高等学校ALP「公共政策とは」、於：京都文教高等学校 2. 京都文教キャリアプログラム 「自分の思いを『ことば』で表そう」、於：京都文教中学高等学校 3. 京都文教高等学校ALP「コンビニの地理学」、於：京都文教高等学校 (自治体や企業における研修等の講師) 平成24年10月 川崎教育委員会連携事業講座、「地図から知る世界のすがた」、於：日本女子大学生涯学習センター (その他) 平成 4年 4月 日本女子大学附属中学校・高等学校(社会科)専任教諭「平25.3まで」 平成19年 4月 日本女子大学人間社会学部教育学科 非常勤講師「平26.3まで」
平成二十一～二十五 (2009～2013) 年度の社会における活動	